

令和6年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 グループホームひだまり

施種種別	認知症対応型共同生活介護
定員	9名
開設日	2011年4月1日
所在地	岩手県久慈市

手順01 改善活動の準備をしよう

- 生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームをつくる。
- 現場担当者に任せるだけでなく、経営層も関与。
- 経営層から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- テクノロジーへの共通認識が持てていなかった。
- 記録の重複記載に負担感がある。
- 記録のタイミング、内容に個人差がある。
- 休憩や残業で記録を行っている。(残業3 1 3分)
- 時系列になっていない。 等

介護ソフト（ワイズマン）のタブレットを活用し、効率的に記録できる環境を整える。

手順03 実行計画を立てよう

導入したテクノロジー
ワイズマン
すごろく

介護ソフト（ワイズマン）のタブレットを活用し、効率的に記録できる環境を整える

1

記録の基準
・ルール作成

- 記録について情報の収集・発信・受信・活用それぞれ5W1Hを定め、個々で認識の差が出ないようにする。

2

マスターライン
の作成

- 1日の業務の流れを明確にし個々で優先順位や役割の認識の差がでないようにする。
- 業務中に記録時間を設け自分で記録時間を作りだす負担をなくす。
- 業務整理を行い、生まれた時間は利用者が楽しめる時間を創出し実行する時間にする。

3

検証の振り返り

手順04

改善活動に取り組もう

導入したテクノロジー

ワイズマン
すごろく

～工夫した点～

介護ソフト（ワイズマン）のタブレットを活用し、効率的に記録できる環境を整える

1

記録の基準
・ルール作成

- ワイズマン担当者より項目・文例から入力の打ち込みを行ってもらった。
- タブレット入力のルールを表に作成し、トイレと事務所カウンターに設置。

2

マスターライン
の作成

- とにかく作成したマニュアルを見た。
- 水分表を廃止したが職員の気持ちを考え、すぐに打ち切らなかった。

3

その他

- タブレット入力に慣れるため、排泄・食事の入力から始めた。

手順05

改善活動を振り返ろう

タイムスタディ 1 週間（記録時間、職員の対話、レクチャー等）

取組前

2 2 1 0 分

取組後

7 1 3 分

1 4 9 7 分
削減

タブレットの導入で短時間でケアの入力ができる。

マスターラインの沿って業務を行い、次は何をやるのか等迷うことがなくなった。

- 記録残業時間：2 7 1 分削減（3 1 3 分→4 2 分）
- 間接業務の削減 1 0 3 1 分削減

手順06

実行計画を練り直そう

新たな課題

- 記録業務において個人差は軽減しつつあるが、一部の職員（約4割）はまだ改善の余地を感じている状況。ただ、利用者との関わりが増え、利用者情報が豊富になる中で、必要なポイントを的確に絞って情報を共有できる仕組みづくりを進めていきたいと考えている。
- また、間接業務にかかる時間を削減し、その分の時間を職員の専門性を活かしたケアの提供に充てることで、さらなるサービスの向上を目指していきたい。



- 利用者情報の共有について個人差を無くしていくには、アセスメント力をつけていく必要があり、今後「教育」の環境を整えていきたい。
- さらなるICT機器や介護助手の活用など検討していく。